

## 物理化学系教員会議プログラム

日時：3月30日（土）11:30~12:30 会場 G（パシフィコ横浜 315号）

### 議題進行目録

日本薬学会物理系薬学部長 京大薬・松崎勝巳先生のご挨拶

#### (1) 今年度シンポジウム開催について

- ・ 第7回物理系薬学の教育・研究を展望するシンポジウム  
（8月 京大薬・松崎勝巳先生）
- ・ 第26回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS2013）  
（8月 昭和大薬・荒川秀俊先生）
- ・ 第23回金属の関与する生体関連反応シンポジウム（SRM2013）  
（6月 武蔵野大薬・川原正博先生）
- ・ 第35回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム  
（11月 東大薬・浜本洋先生）
- ・ 第11回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム  
（PPF2013）  
（8月 静岡県大薬・轟木堅一郎先生）

#### (2) 物理化学関連のコアカリキュラム変更状況

明治薬科大・高波利克先生

#### (3) 2014年世界結晶学年について 熊本大薬・山縣ゆり子先生

次年会教員会議の世話人 熊本大薬・寺沢宏明先生のご挨拶

出席者：72名（名簿を添付した）

### 各議題での報告等

日本薬学会物理系薬学部長 京大薬・松崎勝巳先生のご挨拶

部会活動を活性化させるため、研究委員会を設置し、ホームページのリニューアル、会員情報管理を進める方針を示した。コアカリキュラム改訂への対応のため、教育委員会を設置する方針を示した。科研費や薬学研究奨励財団への積極的なアプライを呼びかけた。

H29-30の物理系薬学部会長は、物理化学の先生方より選出される予定。来年選挙を行う。

#### (1) 今年度シンポジウム開催について

- ・ 第7回物理系薬学の教育・研究を展望するシンポジウム  
8月2日午後@昭和大薬（京大薬・松崎勝巳先生）  
下記のBMASと平行で行なわれ、コアカリ委員・入江徹美先生によるコアカリ改訂に関する特別講演などが予定されている。
- ・ 第26回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS2013）  
8月2~3日@昭和大旗の台キャンパス（昭和大薬・荒川秀俊先生）  
宇宙での健康管理に関して、JAXAの方の特別講演が予定されている。
- ・ 第23回金属の関与する生体関連反応シンポジウム（SRM2013）  
6月21~22日@武蔵野大学5号館グリーンホール（武蔵野大薬・川原正博先生）  
高校生の理科離れに対する取り組みとして、京都薬科大の桜井先生による特別講座「元素は君の友だち！-高校生のための元素周期表入門講座-」などが予定されている。
- ・ 第35回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム  
11月21~22日@東大薬学系研究科（東大薬・浜本洋先生）  
実行委員長の関水和久先生の代理として浜本先生が紹介。東工大の大隅先生による、オートファジーの特別講演が予定されている。
- ・ 第11回次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム（PPF2013）

8月29~30日@清水テルサ（静岡県大塚・轟木堅一郎先生）

京大の宮野公樹先生による、プレゼン術に関する特別講演が予定されている。詳細はファルマシア5月号にも掲載予定である。

## (2) 物理化学関連のコアカリキュラム変更状況

明治薬科大・高波利克先生

現行のカリキュラムは項目が多く窮屈であり、個々の大学の特色や独自性が発揮されにくいという状況となっている。この状況を改めるため、現在、薬学教育モデル・コアカリキュラムと実務実習モデル・コアカリキュラムを統合し、SBOsを3割減とする方向で調整している。物理系薬学の領域では、『生体分子の立体構造と相互作用』についてコアカリキュラムから削除され、アドバンストカリキュラムへ移行される予定となっている。今後、改訂版について公表し、4月以降、パブリックコメントの募集が開始される予定であることが報告された。

高波先生による報告後、慶應大の金澤先生と静岡県立大の轟木先生より質疑、コメントがあった。金澤先生は、コアカリの削り方に関して、応用が利かないような削り方になっていないかという懸念を表明し、パブリックコメントの反映が時間的に可能なものであるか否か問うた。また、轟木先生からは、アドバンストカリキュラムの位置付けについて、特に、薬剤師国家試験との関連について質問があった。

## (3) 2014年世界結晶学年について 熊本大塚・山縣ゆり子先生

2012年7月に、2014年を世界結晶学年とすることが国連決議された。X線が結晶格子で回折する現象をラウエが発見したのが1912年、X線回折による構造解析の理論式をブラッグが構築したのが1913年、ラウエのノーベル賞受賞が1914年、ブラッグのノーベル賞受賞が1915年であり、X線結晶構造解析の基盤が構築されたのが今からちょうど100年ほど前であったことが説明された。また、X線回折に関する基盤構築には、寺田寅彦などの日本人の貢献もあったことが言及された。最後に、来年度の日本薬学会年会にて、特別講演を予定していることが報告された。

次年会教員会議の世話人 熊本大塚・寺沢宏明先生のご挨拶

来年度の薬学会年会は2014/3/27~30の期間、黒髪キャンパスにて実施され、次年会教員会議もその期間中に行なわれることがアナウンスされた。